

岩手県こどもモニター

# 令和7年度 アンケート(第一回)

ほうこくしょ

## 報告書



令和7年10月

せいさくきかくぶ こうちょうこうほうか

岩手県 政策企画部 広聴広報課

# 1

# アンケートの概要



アンケート期間  
きかん

令和7年9月2日(火)～9月25日(木)

回答した人数  
かいとう

105人

答えてくれた人の割合

94.6% (105人／111人)

アンケート方法

インターネットによるモニター調査  
ちょうさ

テーマ

1. こどもたちに震災を伝えることについて  
しんさい  
かんきょう

2. 環境について  
けんり

3. 子どもの権利が守られ、こどもが大切に育てられる

岩手を目指すために

4. 岩手県で働くことについて  
はたら



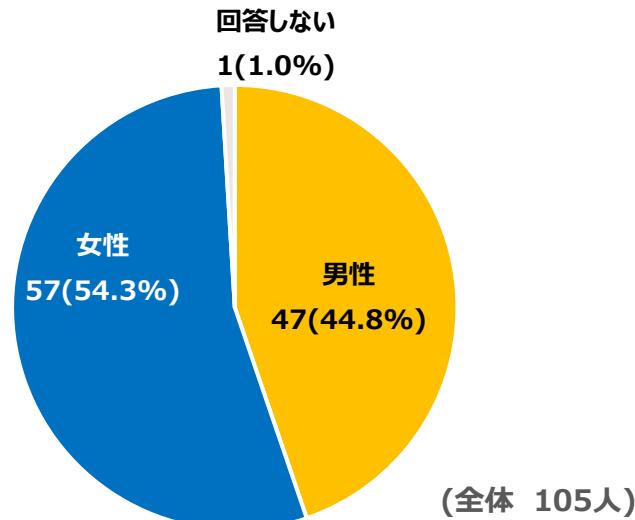
2

かいとうしゃ

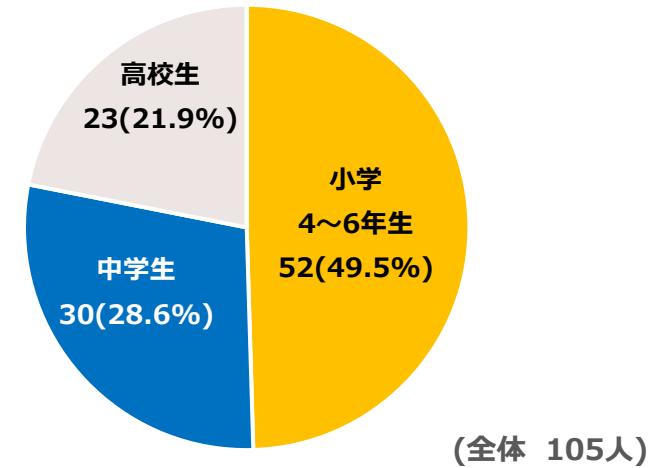
# 回答者について



## 性別



## 学年



	男性	女性	回答しない	計
小学4～6年生	25人	27人	0人	52人
中学生	12人	18人	0人	30人
高校生	10人	12人	1人	23人
計	47人	57人	1人	105人



## 3

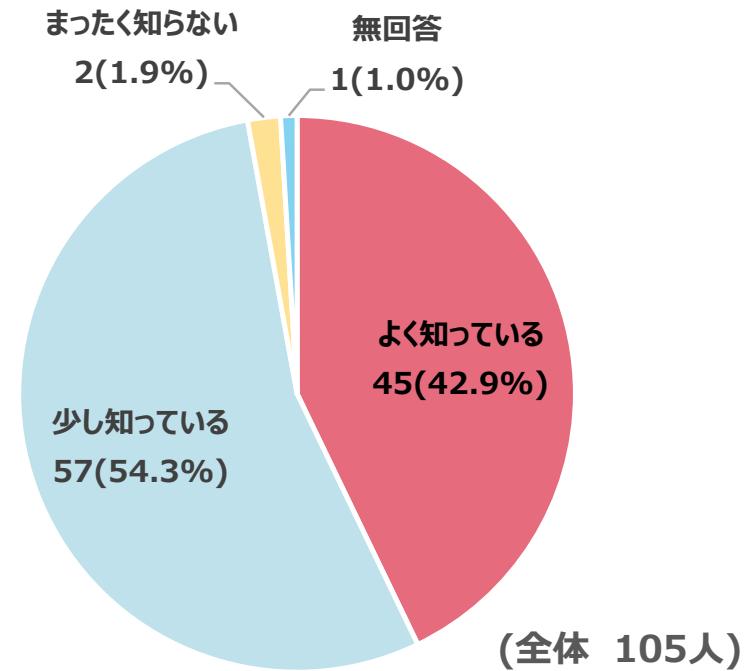
## 調査結果

## テーマ1：こどもたちに震災を伝えることについて



問1 2011年3月11日に起きた「東日本大震災の津波」で、岩手県の海の近くや、あなたの住んでいる地域に何が起きたかを知っていますか。  
(一つ選んでください)

- 東日本大震災の津波について、「よく知っている」は45人(42.9%)、「少し知っている」は57人(54.3%)となっています。
- 「まったく知らない」は2人(1.9%)で、ほとんどの人が東日本大震災の津波で身近に何が起きたかを知っていると答えています。



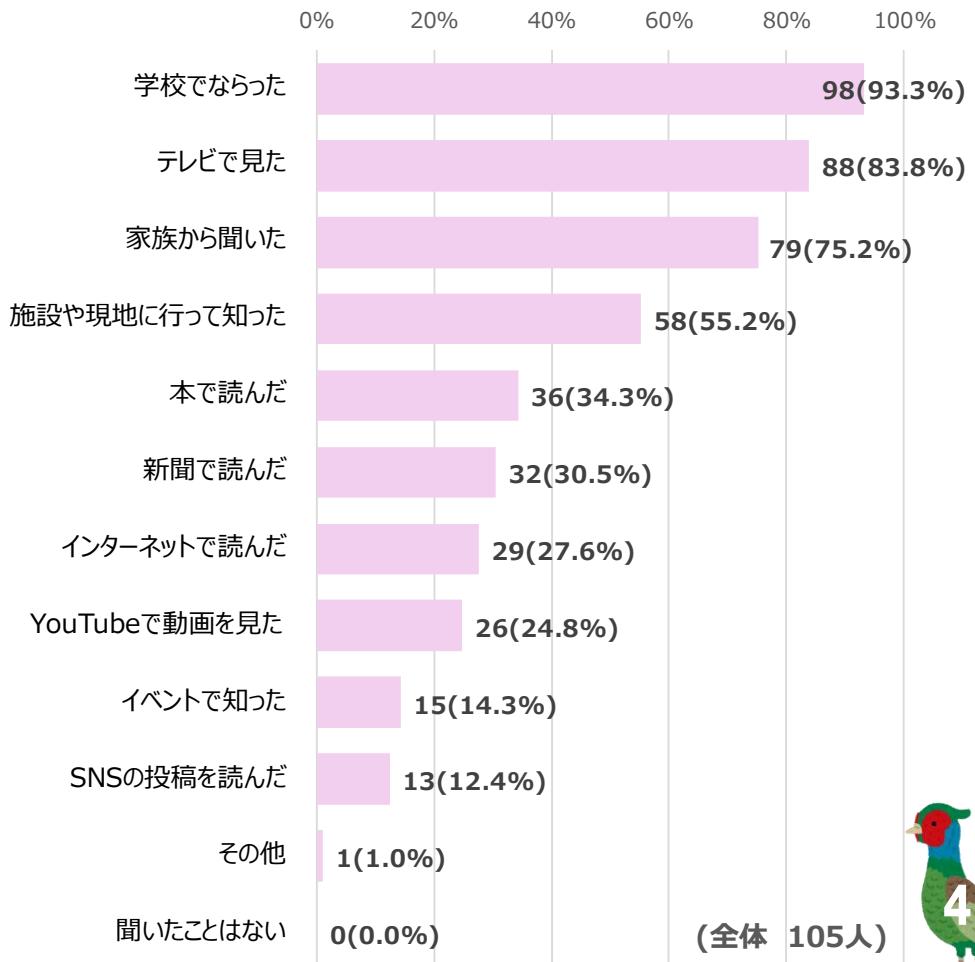


しんさい つなみ

## 問2「東日本大震災の津波」のことを、どうやって知りましたか。

えら  
(いくつでも選んでください)

- 東日本大震災の津波のことをどうやって知ったかについて、「学校でならった」が98人(93.3%)と最も多く、ついで「テレビで見た」が88人(83.8%)、「家族から聞いた」が79人(75.2%)となっています。
- 「施設や現地に行って知った」と答えた人も58人(55.2%)と、半数をこえる人が実際に足を運んで学んでいることがわかりました。
- 「その他」では『宿泊研修で学んだ』という回答がありました。



## 3

## 調査結果

しんさい

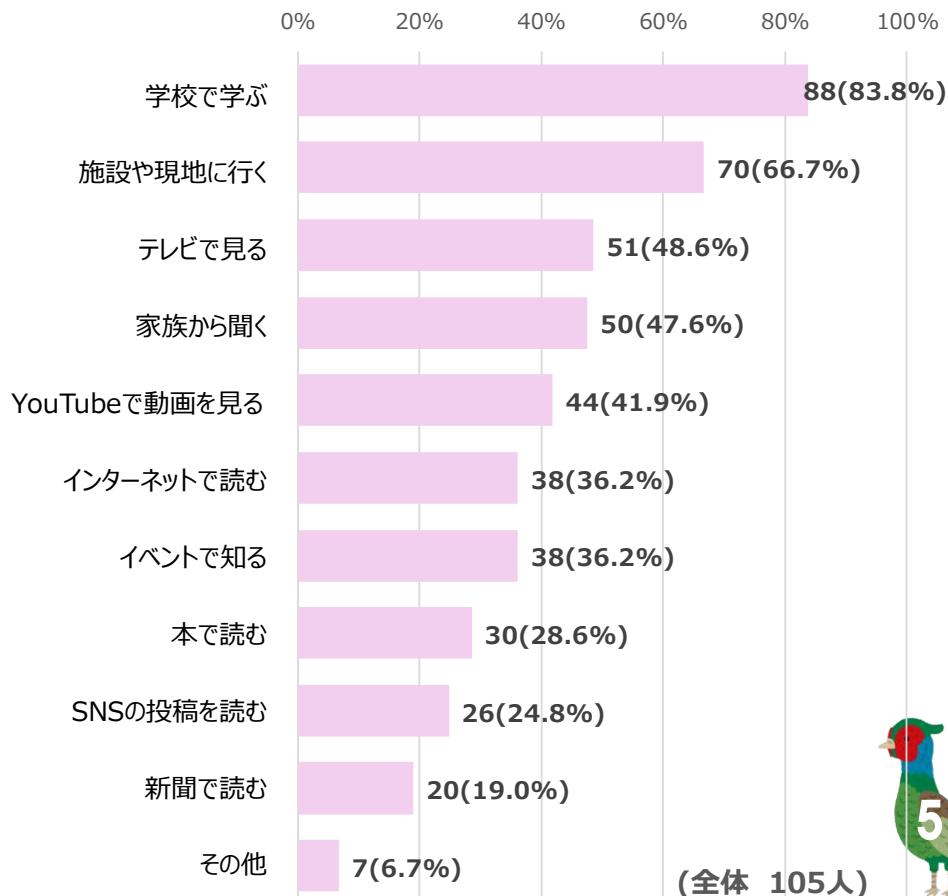
## テーマ1：こどもたちに震災を伝えることについて



問3 自分と同じくらいの年のこどもたちが「東日本大震災の津波」について  
きょうみ 興味をもって学ぶにはどうしたらよいと思しますか。

えら  
(いくつでも選んでください)

- こどもたちが「東日本大震災の津波」について  
きょうみ 興味をもって学ぶにはどうしたらよいかにつ  
いて、「学校で学ぶ」が88人(83.8%)と最  
もっと多く、次いで「施設や現地に行く」が70人  
(66.7%)、「テレビで見る」が51人(48.6%)  
となっています。
- 「その他」では、『ゲーム形式で学ぶ』、『被災者  
かいとう に話を聞く』などの回答がありました。



## 3

## 調査結果

しんさい

## テーマ1：こどもたちに震災を伝えることについて

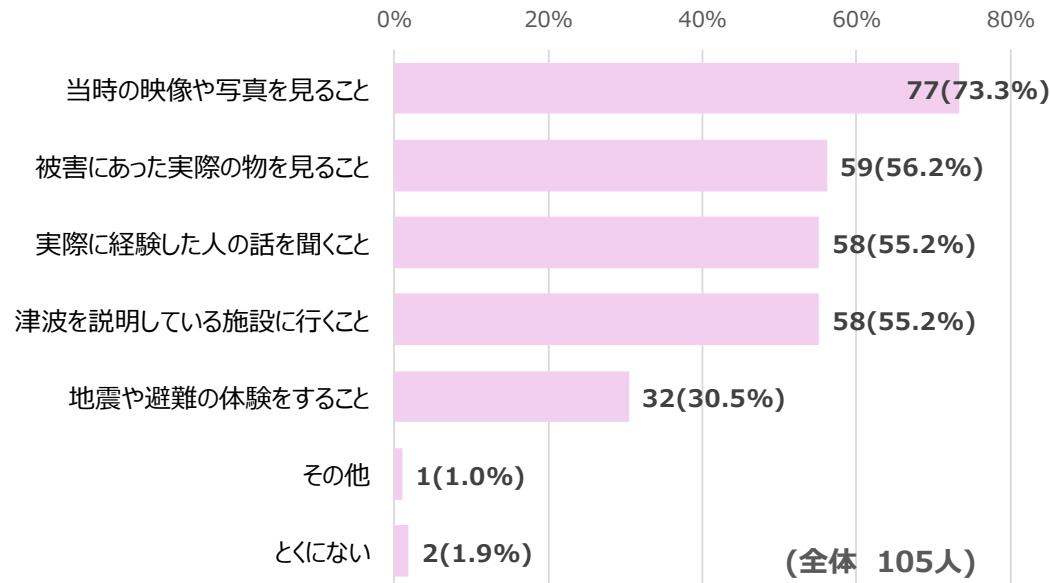


しんさい つなみ

問4 「東日本大震災の津波」を知る方法について、あなたの心にのこっている  
こと、やってよかったことはありますか。(いくつでも選んでください)

しんさい つなみ

- 東日本大震災の津波を知る方法について、  
心にのこっていること、やってよかったこと  
は、「当時の映像や写真を見ること」が77人  
(73.3%)と最も多くなっています。
- 「被害にあった実際の物を見ること」「実際に  
経験した人の話を聞くこと」「津波を説明し  
ている施設に行くこと」など、体験や实物に  
ふれる学びも半数をこえています。
- 「その他」では、『VRで津波の怖さを体験す  
かる』という回答がありました。



## 3

## 調査結果

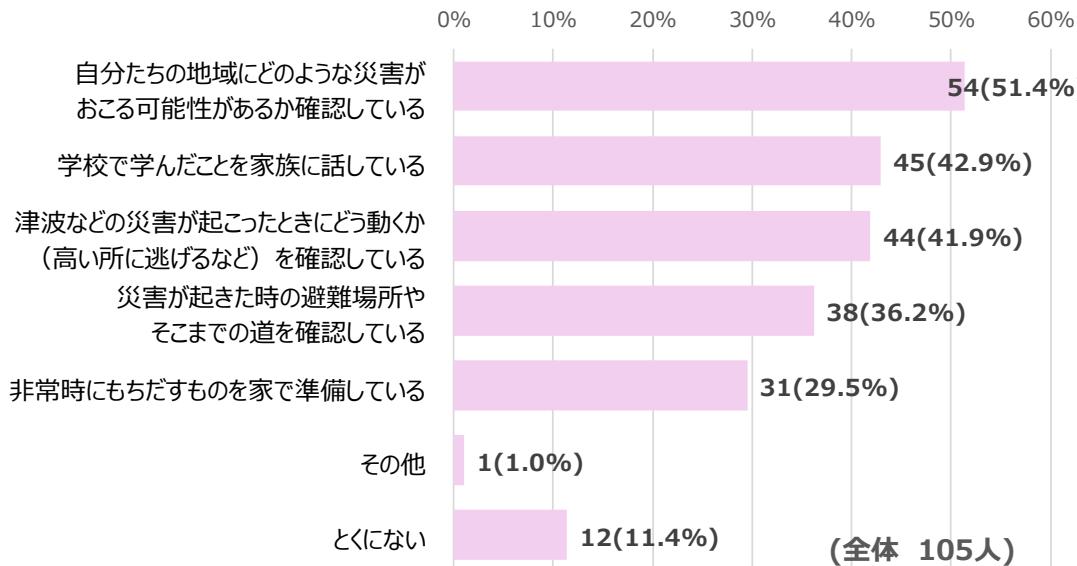
しんさい

## テーマ1：こどもたちに震災を伝えることについて



問5 「東日本大震災の津波」のことを知つてから、日ごろ防災のためにしている  
ことはありますか。(いくつでも選んでください)

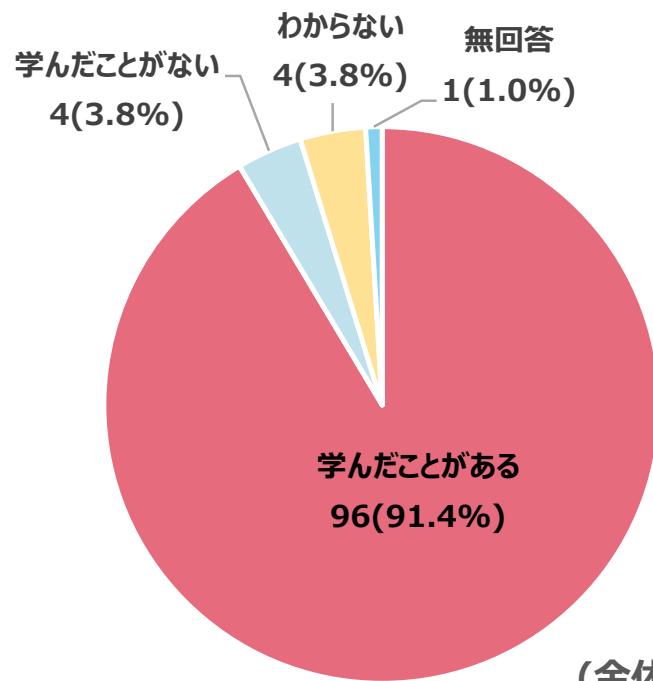
- 日ごろ防災のためにしていることについて、「自分たちの地域にどのような災害がおこる可能性があるか確認している」が54人(51.4%)と最も多くなっています。
- 「津波などの災害が起つたときにどう動かを確認している」は44人(41.9%)、「災害が起つた時の避難場所やそこまでの道を確認している」は38人(36.2%)と、具体的な行動を確かめている人も4割くらいいました。
- 「その他」では、『川が氾濫した時を想定して避難訓練している』という回答がありました。





## 問1 あなたは学校、家、クラブ活動、こども会、町内会などで、 かんきょうもんだい 環境問題について学んだことがありますか。 えら (一つ選んでください)

- 学校、家、クラブ活動、こども会、町内会などで、  
かんきょうもんだい  
環境問題について学んだことがあるかについて、「学んだことがある」は96人(91.4%)となって  
います。
- 「学んだことがない」「わからない」と答えた人は  
それぞれ4人(3.8%)でした。



(全体 105人)

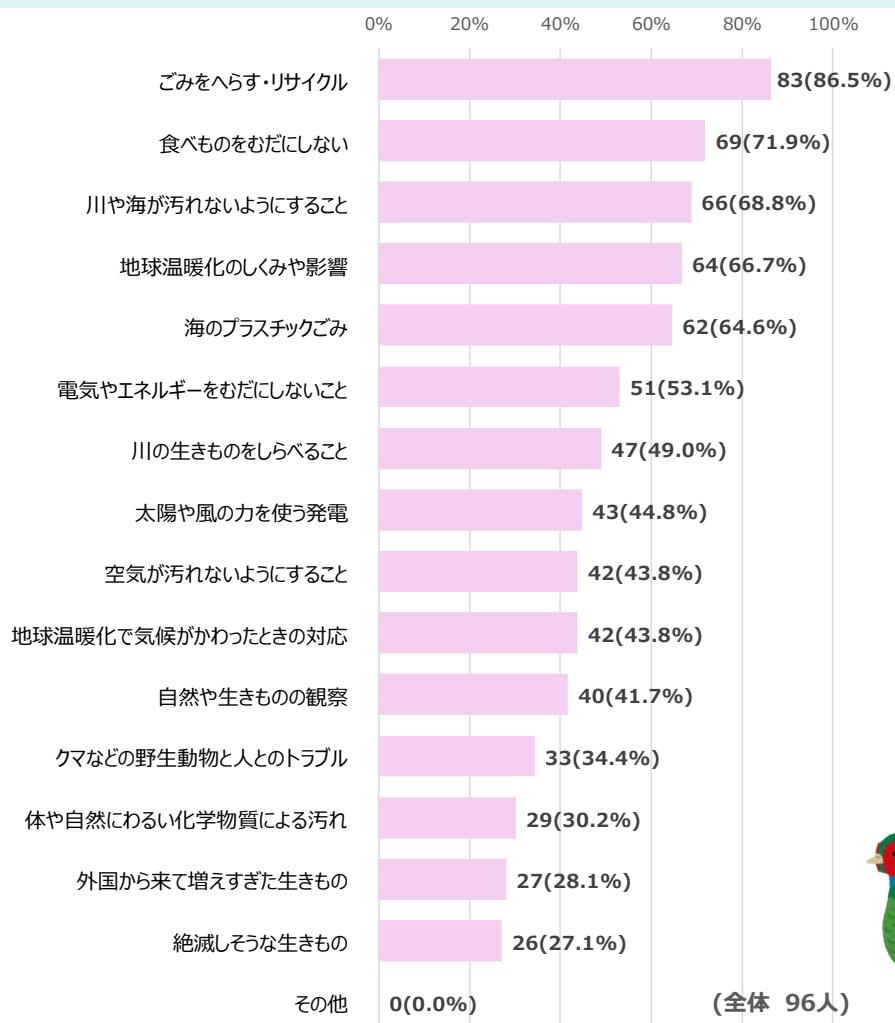




### 問2 学んだことがある人にききます。どんなことを学びましたか。

えら  
(いくつでも選んでください)

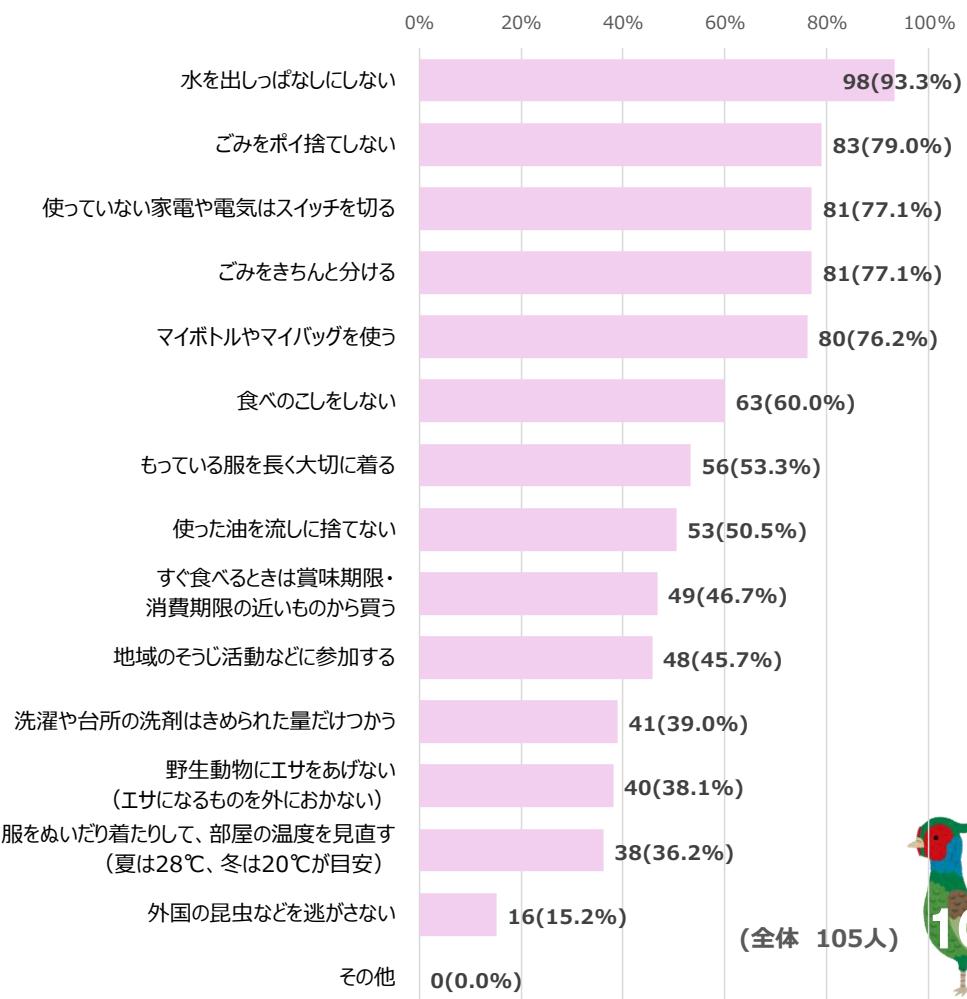
- 学んだことのある環境問題について、「ごみをへらす・リサイクル」が83人(86.5%)と最多く、ついで、「食べものをむだにしない」が69人(71.9%)、「川や海が汚れないようにすること」が66人(68.8%)、「地球温暖化のしきみや影響」が64人(66.7%)、「海のプラスチックごみ」が62人(64.6%)と、身近な生活にかかわるテーマが多く学ばれています。
- いずれのテーマも学んだことがある人が一定数おり、環境問題についてさまざまな角度から学ばれていることがわかりました。





## 問3 あなたやおうちの人はふだんの生活で環境を守るためにどのようなことをしていますか。(いくつでも選んでください)

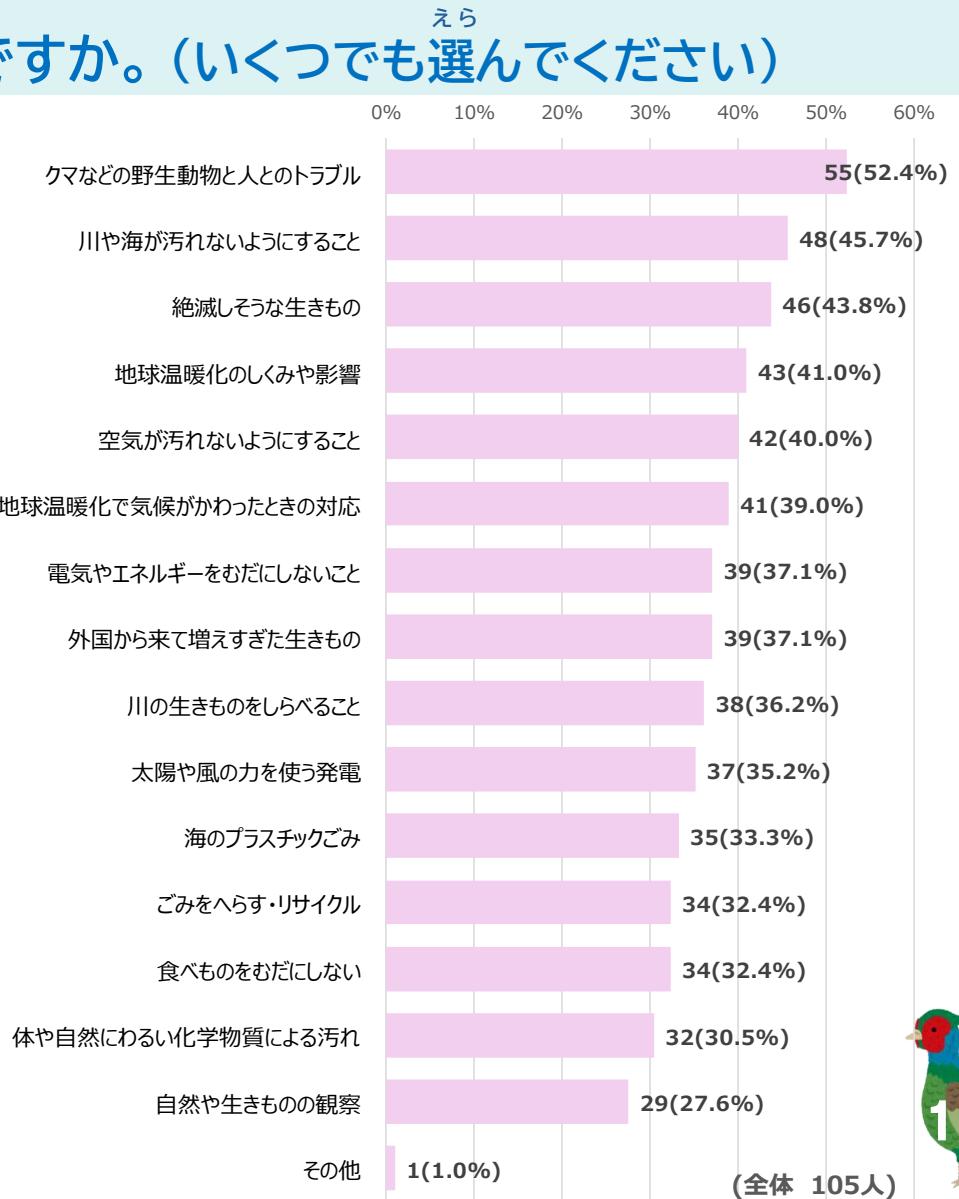
- ふだんの生活で環境を守るためにしていることについて、「水を出しっぱなしにしない」が98人(93.3%)と最も多くなっています。
- ついで、「ごみをポイ捨てしない」が83人(79.0%)、「使っていない家電や電気はスイッチを切る」と「ごみをきちんと分ける」とともに81人(77.1%)、「マイボトルやマイバッグを使う」が80人(76.2%)といずれも7割をこえており、身近な行動が広まっていることがわかります。





### 問4 今後、どのような事を学びたいですか。(いくつでも選んでください)

- 今後学びたい内容について、「クマなどの野生動物と人とのトラブル」が55人(52.4%)と最も多く、ついで「川や海が汚れないようにすること」が48人(45.7%)、「絶滅しそうな生きもの」が46人(43.8%)となっています。
- いずれのテーマについても、学びたいと考えている人が一定数おり、こどもたちがさまざまなことに関心をもっていることがわかります。





**問5 岩手県の自然を守ったり、地球温暖化を防ぐために大切だと思うことを、自由に書いてください。**

### 主なご意見

- ・ 岩手県の自然を守るために、全国的に問題となっている熊について人間と共に存できるように、定期的に草刈りをして人間の居場所を熊に教えてあげたり、山林の環境を整えたりすることで少しでも熊被害を抑えることができるのではないか。
- ・ 街やスーパー・マーケットの周りにもっとたくさん木を生やしてほしい。ポイ捨てをしないための取り組み(ごみを拾う企画など)またはポスターや新聞でやめてほしいことを知らせたりしてほしい。
- ・ 社会の時間に、「ごみがたくさん増えると、ごみ処理の埋め立て地がいっぱいになって、また新しい埋め立て地をつくらなければいけなくなる」と学んだ。また、最近は海のプラスチックごみの問題などが増えているから、ごみをだすときはしっかり分別したり、牛乳パックなどはリサイクルしたりして、ごみを減らしていくことが大切だと思う。
- ・ 県民はもちろん、小中高等学校で環境講座を催すことで、さらに環境問題への配慮や魅力が増し、防ごうとする主体的な行動が見えるのではないか。
- ・ 自分の周りの仲間がポイ捨てをしていることが多いので、高校生向けへの訴えをもっと増やしてほしい。
- ・ 太陽光による発電は日中発電できる半面、太陽光パネル設置のために山を切り拓き、パネルを設置するのがあまりにも環境に負荷がかかり、デメリットのほうが大きいと思う。地球温暖化を防ぐ発電方法としてはいいが、自然を守ることも重要である。

## 5

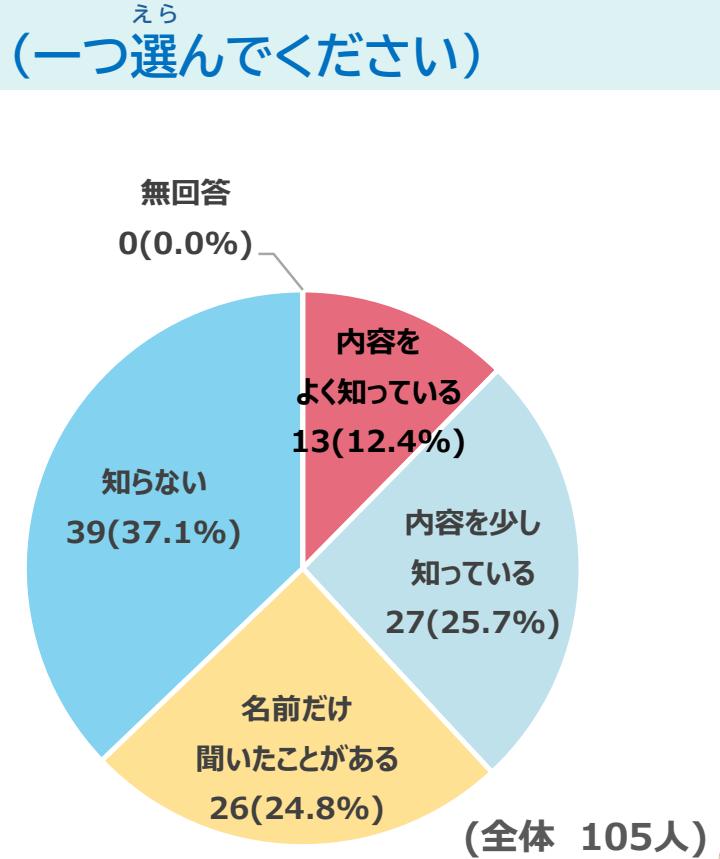
## 調査結果

けんり

テーマ3：子どもの権利が守られ、子どもが大切に  
育てられる岩手を目指すために

問1 あなたは、子どもの権利を世界のみんなが守るためにきめられた  
「子どもの権利条約」を知っていますか。(一つ選んでください)

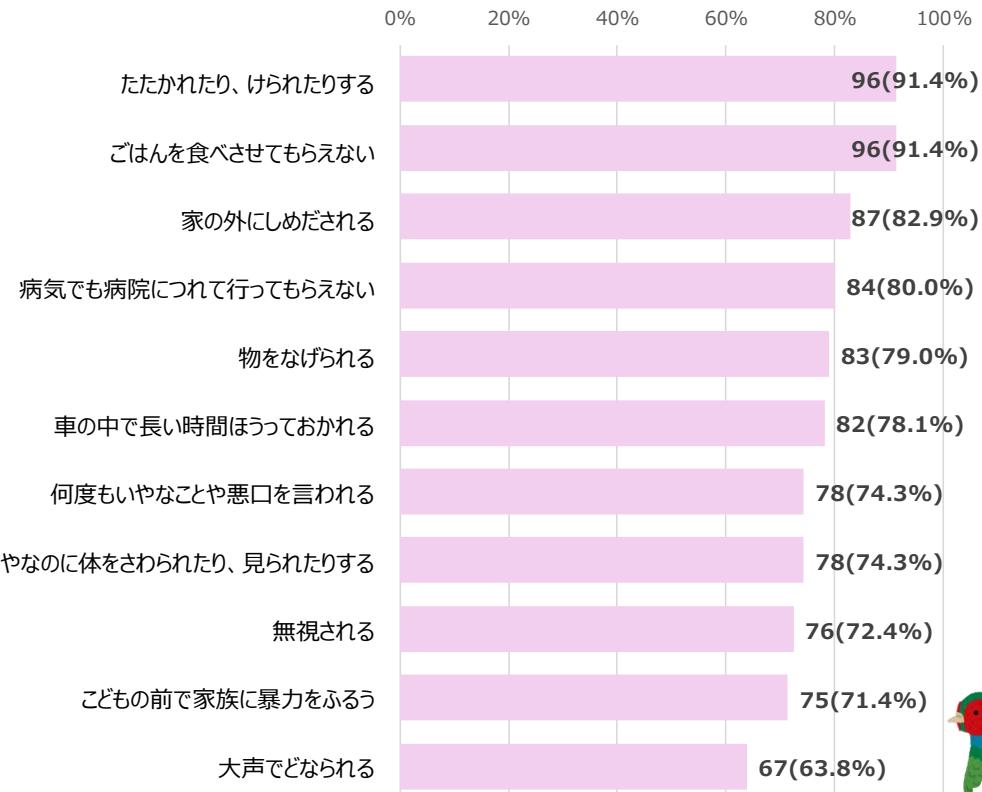
- 子どもの権利条約について、「内容をよく知っている」は13人(12.4%)にとどまりました。
- 一方で、「内容を少し知っている」27人(25.7%)と「名前だけ聞いたことがある」26人(24.8%)をあわせると、半数を超える人が存在を知っていることがわかります。
- ただし、「知らない」と答えた人も39人(37.1%)と多く、今後さらに広めていく必要があります。





問2 子どもの大切な権利をうばう「虐待」について、あなたが「虐待」と  
思うことはなんですか。(いくつでも選んでください)

- 「たたかれたり、けられたりする」「ごはんを食べさせてもらえない」はともに  
96人(91.4%)で、9割以上の人人が虐待  
にあたると考えています。
- いずれの行動も虐待ととらえる人が6割  
をこえており、さまざまな行動がこど  
の大切な権利をうばうことにつながると  
考えられていることがわかります。



## 5

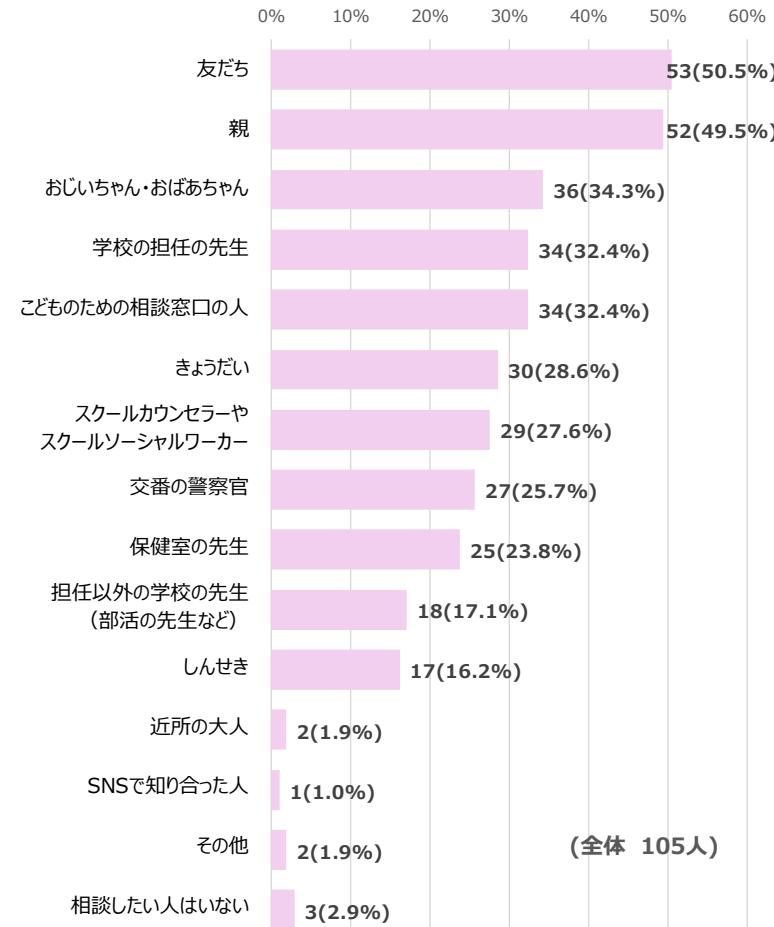
## 調査結果

けんり

テーマ3：子どもの権利が守られ、子どもが大切に  
育てられる岩手を目指すために

問3 もし、あなたが問2で「虐待だと思う」と答えたことを大人からされたとき、  
だれに相談したいですか。(いくつでも選んでください)

- 虐待を受けたときの相談相手として、「友だち」が  
53人(50.5%)と最も多く、ついで「親」が52人  
(49.5%)となっています。また、「おじいちゃん・お  
ばあちゃん」や「学校の担任の先生」など身近な信頼  
できる大人をあげる人も多くみられました。
- 一方で、「子どものための相談窓口の人」「スクール  
カウンセラーやスクールソーシャルワーカー」「交番  
の警察官」など、公的な相談先を選ぶ人も3割くらい  
いました。
- 「その他」では、『AI』、『友達の場合は、本当になん  
とも話すことができる友達』などの回答がありました。



## 5

## 調査結果

けんり

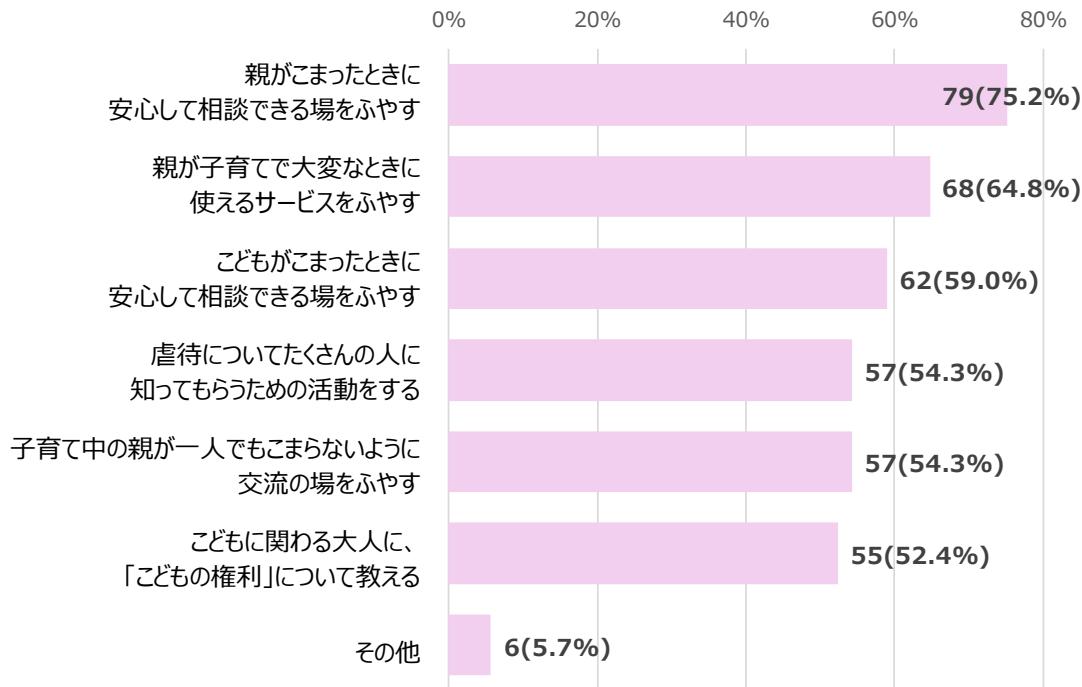
テーマ3：子どもの権利が守られ、子どもが大切に  
育てられる岩手を目指すために

ぎゃくたい

問4 虐待がおこらないような社会にするために、大人たちはどんなことを  
すればよいと思いますか。(いくつでも選んでください)

ぎゃくたい

- 虐待がおこらないような社会にするために必要なことについて、「親がこまつたときに安心して相談できる場をふやす」が79人(75.2%)と最も多くなりました。
- ついで、「親が子育てで大変なときに使えるサービスをふやす」や「子どもがこまつたときに安心して相談できる場をふやす」など、支援サービスや相談場所をふやすことが大切だと考える人も多いことがわかりました。
- 「その他」では、『虐待しないように経済的な余裕と心の余裕を持つ』などの回答がありました。



(全体 105人)



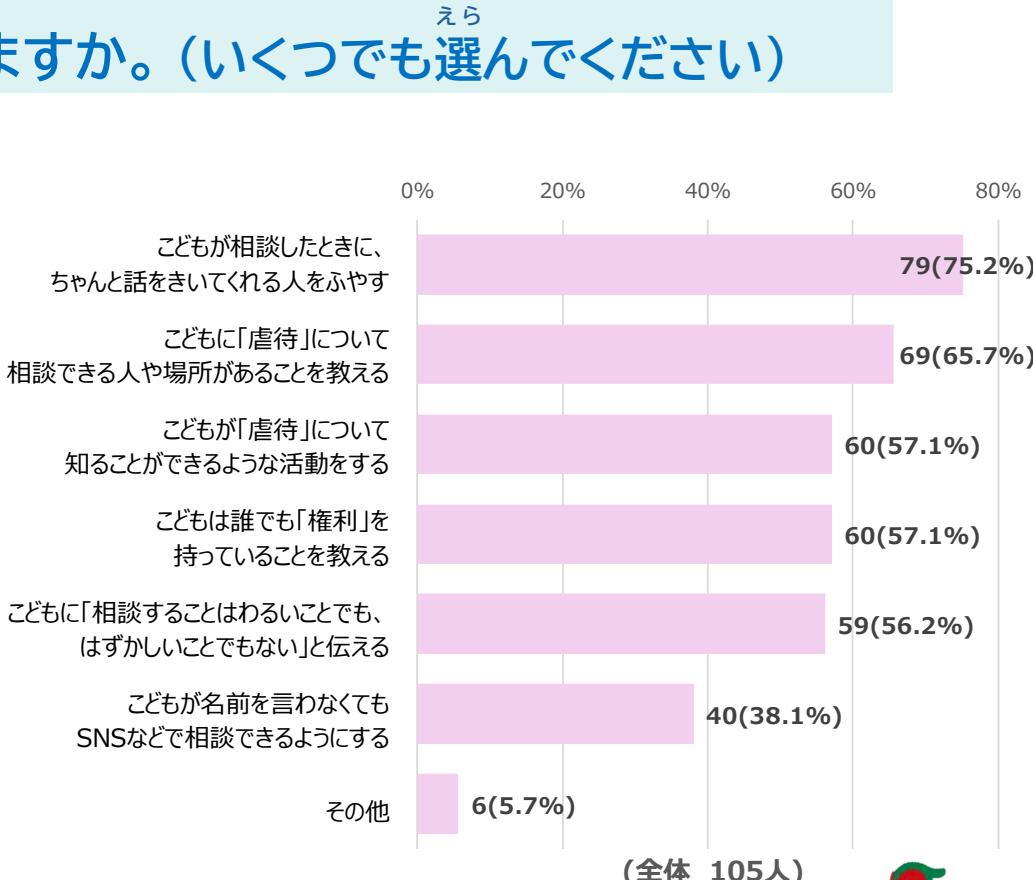
## 5

## 調査結果

テーマ3：子どもの権利が守られ、子どもが大切に  
育てられる岩手を目指すために

**問5 虐待を受けているかもしれない子どもを助けるために、大人たちは  
どんなことをすればよいと思われますか。(いくつでも選んでください)**

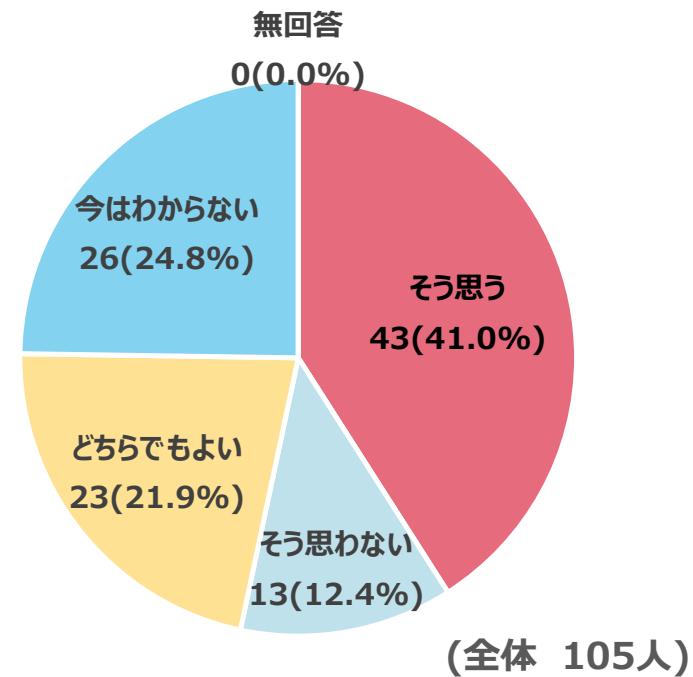
- 虐待を受けているかもしれない子どもを助けるために必要なこととして、「子どもが相談したときに、ちゃんと話をきいてくれる人をふやす」が79人(75.2%)と最も多くなりました。
- 「子どもに虐待について相談できる人や場所があることを教える」「子どもに相談することはわるいことでも、はずかしいことでもないと伝える」など、子どもが安心して声をあげられる環境づくりを重視する回答が多くみられます。
- 「その他」では、『相談電話を、学校や公民館などのあまり人に聞かれないところにこっそりおく』という回答がありました。





<sup>はたら</sup>  
問1 大人になら<sup>えら</sup>、岩手県内で働きたいと思<sup>えら</sup>いますか。(一つ選んでください)

- 将来、岩手県内で働きたいと思うかについて、「そう思う」は43人(41.0%)、「そう思わない」は13人(12.4%)となりました。
- 一方で、「どちらでもよい」が23人(21.9%)、「今はわからない」が26人(24.8%)と、半数くらいの人は進路や就職先についてまだ決めておらず、これからの考え方しだいで変わっていくことがわかります。

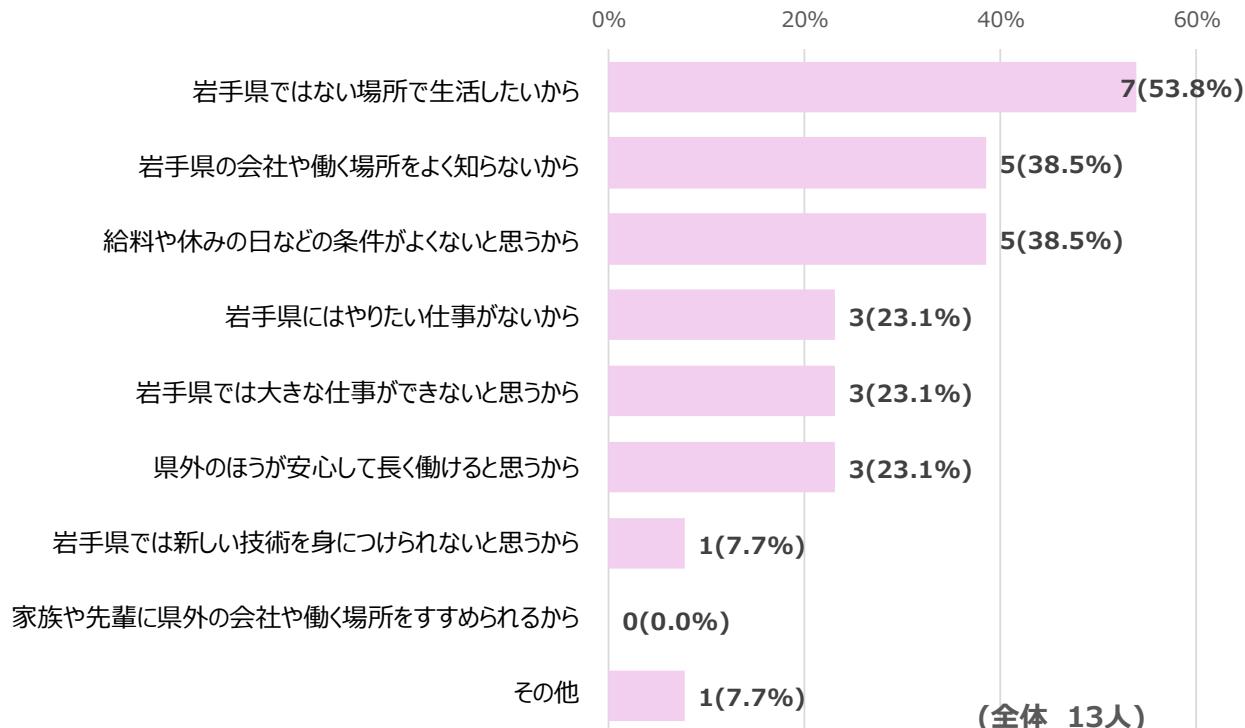




## 問2 問1で「そう思わない」と答えた人に聞きます。なぜですか。

えら  
(いくつでも選んでください)

- 岩手県内で働きたくない理由としては、「岩手県ではない場所で生活したいから」が7人(53.8%)と最も多くなりました。
- ついで、「岩手県の会社や働く場所をよく知らないから」や「給料や休みの日などの条件がよくないと思うから」が5人(38.5%)となっています。

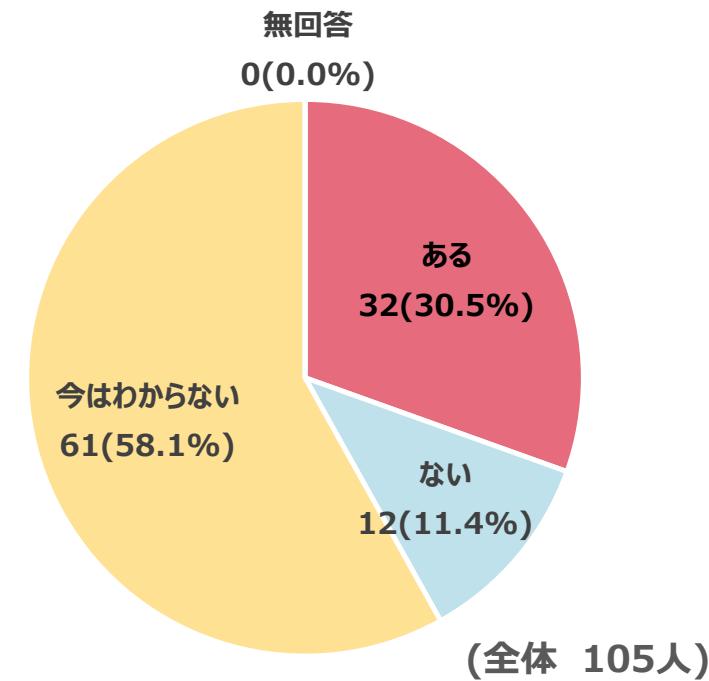




問3 岩手県内で「ここで働いてみたい」と思う会社や働く場所はありますか。

はたら  
(一つ選んでください)

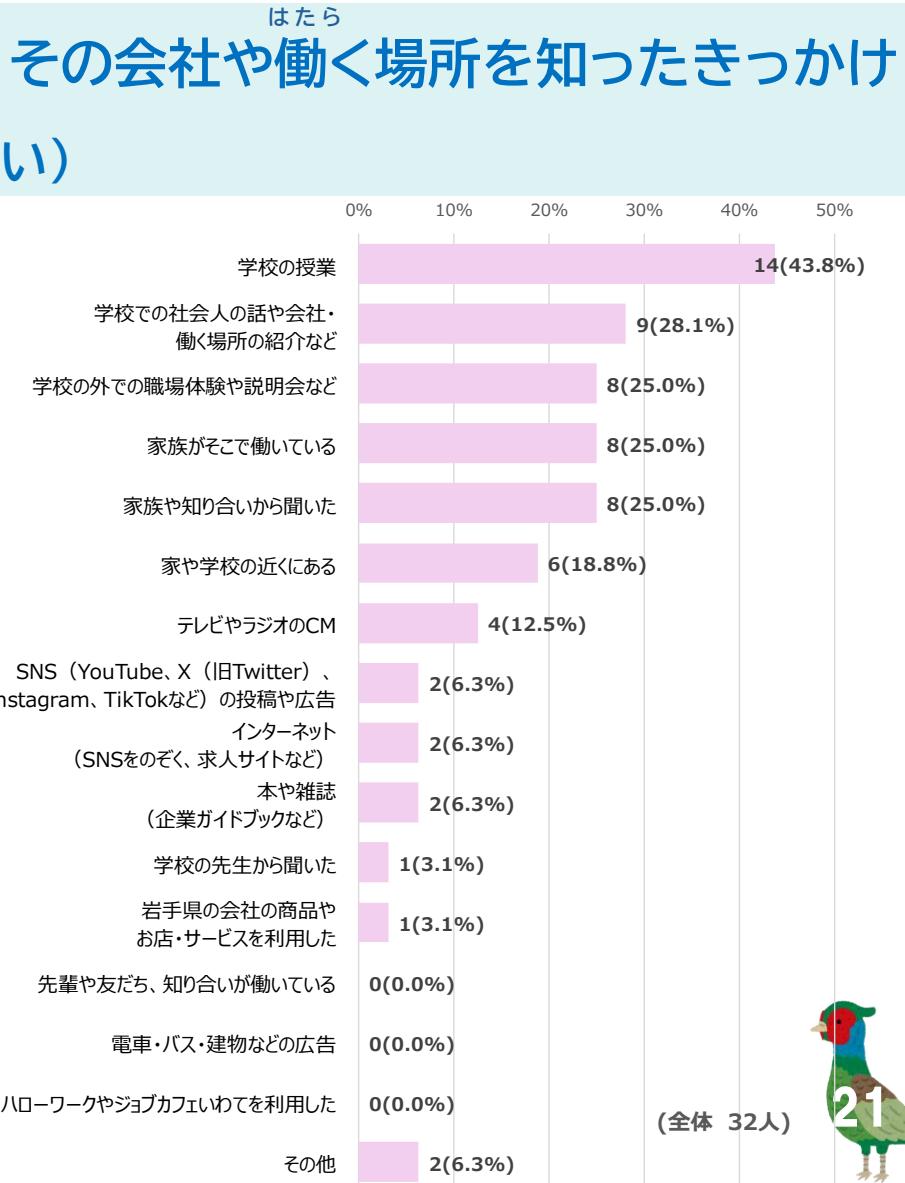
- はたら  
はたら  
• 岩手県内で働いてみたいと思う会社や働く場所が「ある」と答えた人は32人(30.5%)、「ない」と答えた人は12人(11.4%)でした。
- はたら  
• 一方で、「今はわからない」と答えた人が61人(58.1%)と半数をこえており、将来の進路や職業についてまだ具体的なイメージをもっていない人が多いことがわかりました。





## 問4 問3で「ある」と答えた人に聞きます。その会社や働く場所を知ったきっかけ は何ですか。(いくつでも選んでください)

- 働いてみたい会社や場所を知ったきっかけについて、「学校の授業」が14人(43.8%)と最も多く、ついで「学校での社会人の話や会社・働く場所の紹介など」が9人(28.1%)となっており、学校での活動が大きなきっかけとなっていることがわかります。
- また、「学校の外での職場体験や説明会など」「家族がそこで働いている」「家族や知り合いから聞いた」など、身近な人との関わりや体験を通して知った人も多くみられました。
- 「その他」では、『海を見に行った時、漁師さんとふれあうきっかけがあった』という回答がありました。





しょうらい

問5 将来岩手県内で働く人をふやすために、県や学校がどんな取り組みをしたら  
よいと思いますか。(いくつでも選んでください)

- 岩手県内で働く人をふやすための取り組みとして、「学校の外で職場体験や説明会をする」が79人(75.2%)、「学校での社会人の話や会社・働く場所の紹介など」が75人(71.4%)と多くなっています。
- 「その他」では、『地域の職業を知るきっかけをふやす』、『都市部との賃金の差をへらす』、『SNSで県で働くメリットを宣伝する』、『岩手県で働く人ではなく、「岩手県だから働く」人をふやすことが大事だと思う』などの回答がありました。

